

家庭編

令和2年度「ごみゼロやまがた県民運動」

山形県では、全国一ごみの少ない県を目指して、「第2次山形県循環型社会形成推進計画（中間見直し版）」を策定し、各種施策を実施しています。また、「ごみゼロやまがた推進県民会議」では、それぞれの家庭や職場で取り組むべき「ごみゼロやまがた県民運動」展開方針を次のとおりとし、全県的な県民運動を推進しています。本県の「1人1日当たりのごみの排出量（都道府県別平成29年度実績）」では、山形県は920gで少ない順から全国18位です。平成29年度におけるもっとも少なかった長野県の817gより、約100g多い状況です。

1人1日当たり約100gごみを減らして、全国一ごみの少ない県を目指しましょう。

以下の3つの運動に、各家庭で積極的に取り組みましょう。

約100gとは、例えば…

- ・キャベツ（大）の葉2枚
- ・きゅうり1本
- ・牛乳パック（1ℓ）約3本
- ・ティッシュの空箱約3箱

⇒ごみを約100g減らして、全国一ごみの少ない県を目指しましょう。

食品ロス削減運動

◆国民1人1日当たりの食品ロス（食べられるのに廃棄される食品）量は約139gで、茶碗約1杯のご飯の量に相当します。（出典：農林水産省及び環境省「平成28年度推計」）

◆日本の年間の食品ロス643万t（平成28年度推計）は、国連世界食糧計画による食料援助量約380万tの約1.7倍

○必要な分だけ購入しましょう

- ・買い物に出かける前に冷蔵庫、食品庫内をチェックし、必要な量だけ購入しましょう。

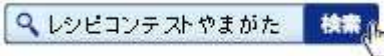
○冷蔵庫・食品庫内の在庫管理を定期的に行いましょう

- ・冷蔵庫内の在庫管理を定期的に行い、食材を使いきりましょう。
- ・賞味期限・消費期限の期限表示を正しく理解しましょう。賞味期限を過ぎた食品であってもすぐに食べられなくなるわけではありません。すぐ捨てず、におい等で食べられるか判断し、できる限り有効利用しましょう。
※ 未開封で記載された方法で保存した場合、「賞味期限」はおいしく食べることでできる期限で、「消費期限」は安全に食べられる期限。
- ・冷蔵庫内の在庫管理を定期的に行い、食材を使いきりましょう。
- ・不要となった食品は、フードバンクなどへ寄付をすることで有効に活用することができます。
※ フードバンクとは、企業や家庭等から未利用食品の寄付を受け、必要としている人や施設に提供する取組、また、それを行う団体。

○食べられる部分まで捨てないで

- ・調理では食材の捨てる部分をできるだけ少なくし、作り過ぎて残った料理は冷凍保存し、お弁当のおかず等に活用したり、作り替えたりして食べ切りましょう。

環境にやさしい料理レシピ



プラスチックごみ削減運動

- ◆ 日本の人口1人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量は米国に次いで世界第2位（2018 国連環境計画報告書）
- ◆ 2050年には、海洋中のプラスチック量が魚の量以上に増加の予測（2016 世界経済フォーラム年次総会報告書）

○お買い物はマイバッグで

- ・お買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋をもらうのを断りましょう。
※ 令和2年7月からレジ袋が有料化される予定です。

○使い捨てのプラスチックの使用を減らしましょう

- ・使い捨てのプラスチック製カップやストロー等の利用はできるだけ控え、水筒やマイボトルを活用しましょう。
- ・洗剤やシャンプー等を買うときは、詰め替えできる商品を選択しましょう。



酒田市飛島の海岸での漂着ごみ

ごみの分別・削減徹底運動

○雑紙分別で燃やせるごみが大幅減

- ・リサイクルできる紙類を市町村の雑紙回収に出すことで、燃やせるごみを大きく減らせます。

○店頭回収で買い物ついでにリサイクル

- ・お買い物の際はきれいに洗った食品トレイや牛乳パックなどをマイバッグなどに入れて持って行き、スーパー等の店頭回収に出しましょう。段ボールや雑誌等も回収しているスーパーがあります。こまめに回収に出して、家もスッキリごみゼロにしましょう。

○資源回収で地域に貢献しよう

- ・町内会や子供会などが行っている資源の集団回収に積極的に協力しましょう。

○生ごみの水切りでごみダイエット

- ・生ごみの約8割は水分が占めています。水切りを徹底して水分を減らすだけで、ごみの重量を大きく減らすことができます。
- ・生ごみを自宅で処理して堆肥として家庭菜園で活用しましょう。堆肥化装置への助成を行っている市町村もあります。



発行：ごみゼロやまがた推進県民会議
お問い合わせ：ごみゼロやまがた推進県民会議事務局
山形県環境エネルギー部循環型社会推進課
TEL:023-630-2322 FAX:023-625-7991